

# Book Review



## 臨床家のための 口腔疾患カラーアトラス

神部芳則・大橋一之 編著



Reviewer

笹野高嗣 Takashi Sasano

(一般社団法人 日本口腔診断学会理事長、  
東北大学大学院歯学研究科 口腔診断学分野 教授)

A4判, 106頁  
オールカラー  
定価 (7,000円+税)  
医歯薬出版刊



私の書棚には、診断学に関する書物が数多く所蔵されている。そのなかで、この書籍はきわめてユニークで印象深い。

編者は本書の冒頭で、「当初は多くの書籍がそうであるように、疾患概念・病態・診断や治療法まで含めて記載していたが、最終的にこうした部分は一切削除した。つまり、本書の写真を見てどういう疾患を思い浮かべるか、鑑別疾患としてどういう疾患があげられるかの診断を進めるトレーニングに使っていただけるようにするため、写真のみにした」と述べている。疾患概念・病態などの説明は他の書籍に譲り、その代わりに、数多くの病態写真が掲載されている。まさに、臨床家の「眼を鍛える」書籍である。

臨床の場では、「問診」「臨床所見」「検査所見」などから得られる情報を

総合的に判断し、全身を基軸として論理的に鑑別疾患を絞り込む。同時に的確な診断のもとに適切な治療法を選択し、予後を推測する。この一連の過程において、知識のみならず臨床経験が重要であることは言うまでもない。

経験とは単に医師、歯科医師としての経験年数に比例するものではなく、いかに多くの症例を観て、考えてきたかである。本書は、歯の異常から始まり、口腔粘膜疾患、炎症性疾患、先天異常・発育異常、外傷、嚢胞、良性腫瘍、悪性腫瘍、唾液腺疾患、顎関節およびその関連疾患、神経疾患、全身疾患に関連した口腔病変の順に構成されている。日常の臨床では観ることができない稀な症例、鑑別に注意を要する症例、全身疾患に起因する症例など、数多くの症例が網羅されている。

本書を最初から読んで、一つひとつ

の疾患を順に勉強することも重要であるが、読者自身が臨床の現場で診断に苦慮するような症例に遭遇した場合などに、好奇の眼をもって本書を紐解き、鑑別疾患を絞り込むことも有効な活用法と思われる。本書には、「眼を鍛える」それだけ多くの症例が掲載されているからである。

編者の神部芳則先生、大橋一之先生は、長年の経験と弛まぬ努力により、数多くの症例の病態写真を集め、整理されて、本書の完成に導かれた。単独の施設でこれだけ多くの貴重な症例を集め保管されたことに敬意を表するとともに、読者の一人として心より感謝申し上げる。多くの読者が本書の価値を理解し、眼を鍛え、臨床に役立てられることを願う。